

議長記者会見（第22回）会見録

日時：平成28年6月21日（火）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う宮下議長（右）と谷内副議長（左）

1 今議会を振り返って

伝統ある石川県議会の第98代の議長に就任をいたしまして、約3か月が経過しようとしております。

就任直後の4月に発生した熊本地震によりまして、多くの方が犠牲になられました。お悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様方にもお見舞いを申し上げたいと思います。

熊本地震では、未だに余震が続き多くの方が避難所生活を余儀なくされているところではありますが、早期の復旧・復興を願うものであります。私も能登半島地震を経験しまして、避難所を幾度となく回り、被災をされた皆様方の思いを聞いてまいりましたので、胸のうちがよくわかります。本当に、早期に復旧していただきたいと思います。

さて、今定例会は、議長就任後最初の定例会であり、緊張感をもって臨んだところではありますが、先ほど閉会をいたしましたので、本会議を振り返って、少し所感等を述べたいと思います。

①災害対策について

まず、災害対策についていろいろな質問がありました。多岐にわたる質問がなされたわけではありますが、熊本地震を踏まえた災害対策、防災に関するものが多くありました。各議員からは、大規模地震が発生した場合の初動救助・救援体制、避難所の指定の考え方や福祉避難所の運営マニュアル策定、地震が発生した場合の金沢城の状況などの多くの質問があったところであります。

執行部からは、県内市町では、908の施設を避難所として指定しており、想定される避難者数を超える十分な収容人数を確保しているとのこととあります。救援物資の供給については、市町が被災者のニーズの把握ができない状況に陥ったときには、要請がない場合でも、県は備蓄物資を市町へ供給する。市町の福祉避難所の運営マニュアルの策定を促すため、県は指針を今年度中にまとめるということとあります。菱櫓や五十間長屋、河北門などは構造計算を行っており、耐震性が確保されている。などの答弁がありました。

能登半島地震の経験からも、常に災害に備えることが重要であり、今後とも県民の安全・安心を守るために、議会としても議論を深めていきたいと思っております。

②人口減少対策について

少子高齢化、人口減少は、極めて深刻な課題であります。

社会減対策について、学生の県内企業への就職に向けた取り組みなどについての質問もありました。執行部からは、県内企業の若手社員と学生との交流会を県内で10回に拡大し、東京、大阪、名古屋でも開催するほか、県外大学とのUターン就職支援協定、インターンシップを受け入れる企業と学生とのマッチング交流会の充実を図り、学生の県内での就職を促進するとのこととありました。

また、本年度、本多の森庁舎に設置した「いしかわ就職・定住総合サポートセンター（ILAC）」や、首都圏の窓口となる「いしかわ移住UIターン相談センター」についての質問もありました。執行部からは、ワンストップサービスとして希望者のニーズに応じたきめ細やかな相談対応に努め、本県の移住・就職先としての魅力の積極的なPRに取り組むとの答弁がありました。

自然減対策については、従業員の出会いの機会の提供に取り組む企業を「いしかわ婚活応援企業」として認定する制度の創設について、認定企業数や制度の狙いなどの質問、本年度開設した「いしかわ結婚支援センター」の市町との連携や、「婚カフェいしかわ」を加賀・能登にも設置できないかなどの質問もありました。執行部からは、「いしかわ婚活応援企業」は2、3年で100社程度の認定を目指し、若者の結婚に対する希望が

叶う社会の実現に取り組む、また、「いしかわ結婚支援センター」では、市町の支援情報を収集して、発信するなど情報共有を図るとのことでありました。さらに、「婚カフェいしかわ」については、能登・加賀での出張相談を検討するとのことでもありました。

議会といたしましても、人口減少への対応は喫緊の課題であり、執行部とともにしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

③観光誘客について

北陸新幹線金沢開業2年目のゴールデンウィーク期間中の観光客の入り込みは、昨年同様に開業前を大きく上回ったとのことではありますが、引き続き、県下全域に開業効果を持続・発展させることが必要であります。各議員からは、関西からの誘客促進、海外企業等の報奨旅行の誘致、外国人観光客の誘客戦略などについての質問もありました。執行部からは、大阪事務所内に西日本誘客推進室を新設し、誘客体制を強化し、関西、中京圏の大手私鉄グループと連携した誘客キャンペーンを新たに実施する。また、より高い経済効果が期待できる報奨旅行については、これまでのアジアからの誘致に加え、日本の歴史や文化に関心が高い欧米からの誘致を強化していくとのことでありました。

議会といたしましても、交流人口の増加は地域の活性化につながることからしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

④東京国立近代美術館工芸館の地方移転について

移転の方針が決まった東京国立近代美術館工芸館については、兼六園周辺文化の森にある第九師団司令庁舎や偕行社の建物移設、文化立県にふさわしい作品展示などの質問もありました。執行部では、建物の移築は不可能だが、外観デザインの活用も一つの考えを示すとともに、作品については、石川にふさわしい分野、作品となるよう協議を進めていくとのことでありました。

議会といたしましても、全体概要や移転にかかる費用対効果などしっかりと議論し、執行部とともに取り組んでまいりたいと思っております。

⑤がん対策について

本年3月に議員提案により制定された「石川県がん対策推進条例」に関連して、県の責務を果たすための施策や建設中の県立中央病院におけるがん医療の機能向上などの質

問もありました。執行部からは、がん対策は県民の生命と健康を守るためにも重要であり、検診受診率のさらなる向上や拠点病院を中心とした医療の充実に取り組む、新県立中央病院では、手術室の増設、無菌室や外来化学療法室を増床するなど地域のがん診療の拠点として高度な治療を提供できる態勢を整えるとのことでありました。

議会といたしましても、県民の疾病による死亡の最大の原因となっているがん対策にしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

⑥意見書について

今定例会中に可決された意見書についてであります。 「意見書等調整会議」におきまして、調整等された結果、各党派から提案のあった6件の意見書のうち、「介護報酬の見直し・介護労働者の処遇改善と人材確保を求める意見書」など3件が可決をされました。

可決をされた3件については、県議会としていずれも国へ要望するものであり、国会及び関係行政庁へ提出することとしております。

2 議会の広報・広聴について

議会の広報広聴活動の一環として、平成26年度から開催をし、好評を得ております「ふれあい親子県議会教室」を、今年も開催いたします。今回で3回目となります。将来の有権者となる小学生と、その保護者に、議員との交流や議場探検等を通じて、県議会の役割や仕組みを楽しく学んでいただきたいと思います。過去2年間開催してきましたが、いずれも募集定員を大きく上回る応募をいただいたことから、今年は実施日を2日間に増やし、8月17日（水）と18日（木）の午後に開催することといたしました。対象は、県内の小学校に通う4年生から6年生の児童とその保護者で、1日36組、2日で計72組としているところであります。参加議員は、議長、副議長と広報広聴会議の委員9名を予定しております。

3 その他

東海北陸7県議会議長会議について

去る6月6日に東海北陸7県議会議長会議が金沢市内で開催されました。当日は、7県の議長、副議長さん方が一堂に会して、東海北陸地域に共通する課題について審議され、北陸三県の共同提出である北陸新幹線の整備促進については、金沢・敦賀間の平成

34年度末までの確実な開業、敦賀・大阪間のフル規格による整備方針及びルートを平成28年度内に決定をし、大阪までの早期全通を図ることなどを国に求めることとしたほか、本県が提出した児童虐待防止に向けた体制拡充に関する要望など8件が決定されたところでございます。決定された議案につきましては、後日、7県議会議長会で国に対し要望活動を行う予定であります。

4 所感

常々、お話ししておりますが、能登が元気になることが石川県の元気につながると思っております。奥能登で特に危惧しているのが、これまで自治体病院の医師の拡充を求めてきて、それなりに充足されてきたと思いますが、一方、町のお医者さんが、高齢化し、さらに患者さんが少なくなったりしてお医者さんが少なくなってきたことが大きな課題になるのではないかと。県はもちろん、国へも訴えて何とか対処していきたいと思っております。地域の方々が最後に大事なのはお医者さんでありまして、もしものときに医者がいないのであれば金沢に出て行くと言われると私どもは愕然とするところであります。このことは大変難しい問題ではあります、なんとしてもなしとげたいと思っております。

幸いにして副議長も私の隣村の出身でありますので、能登のことはよくわかっておられる方でありまして、能登で育った方でありまして、人の痛み苦しみは十分承知をしておられる方なのでしっかり手を握って、今年一年間頑張ってもらいたいと思っております。

5 質疑応答

記者

政治や議会への関心を高める取り組みで、昨年からは議会だよりを学校に配ったり、今年度は3回目となる親子県議会を2日間に拡充したり、いろいろ充実し、高まっておりますが、特に18歳選挙権を見据えて、新しい取り組みを議会としてお考えでしょうか。

宮下議長

そういった対応も大変大事なことでありますので、これからしっかりと副議長や議員の皆様方と相談しながら進めてまいりたいと思っております。

18歳の方が本当に選挙に行ってくれるのか大変不安でありまして、一昨日、18歳になった高校生に話を聞いていると、関心がないことはないが、選挙に行くかどうかは

ちょっとわからないとのことでした。政治に関心を持ってもらえるようにすることが、我々の仕事だと思います。また、関心を持って将来の日本国のためにという思いを持っておられるお子様方もおられると思いますので、そんな方々の夢を壊さず輪を広げていただきたいと思う次第であります。

谷内副議長

就任して3ヶ月となりますが、この間、相当ハードで3ヶ月で1年分ぐらいの働きをさせてもらった思いであります。責任も重大で、この6月議会は初めての議会であり、議長とともに無事に乗り越えられたのは、皆様方のご協力のおかげだと思っております。

また、熊本地震は、先ほどお話がありましたが、今回、九州や四国でも大変な水害がありました。県民の皆様が安心して暮らせるよう県民目線、生活者目線で災害対策や防災減災対策にしっかりと県議会でも議長と一緒に取り組んでいくことが大変重要であると思っております。

もう一つは、新幹線2年目ということで、一番大事な年だと思いますし、観光庁の観光立国ショーケースに、全国で3箇所の一つに金沢が選ばれており、外国人の方も相当石川県に入って来られますので、金沢だけでなく能登を含めた全域が対応できるような整備もきちっとしなければいけないと思っております。これからも議長をお支えしてサポートしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。